

第43回

【テーマ別】

市民と市長のタウンミーティング 報告書



○期 日 平成 24 年 5 月 10 日

○会 場 かたらいの道 市民スペース

武 蔵 野 市

ま え が き

武蔵野市では、市民が自らのまちを自らの手で創りあげていく市民自治の基本に立ち、市民と行政が一緒にまちづくりを進めていくプロセスを大切にしたいと考えています。

そのひとつの手法として、市民と行政が「同じ目線」「双方向」で、地域の課題や市政全般について率直に意見交換を行う場として、「市民と市長のタウンミーティング」を開催しています。

この会には、地域のまちづくりの拠点であるコミュニティセンターを会場として、市とコミュニティ協議会が企画・運営方法を協議し、協働して実施する「地域別タウンミーティング」、テーマを設定して、そのテーマの関連団体にご協力をいただきながら実施する「テーマ別タウンミーティング」、そしてテーマを決めないで実施する「青空タウンミーティング」がございます。

平成18年からの2年間で、すべてのコミュニティ協議会との共催により、「地域別タウンミーティング」を計16回開催しました。その後、「地域で支えあう福祉のまちづくり」、「市民とつくる環境にやさしいまちづくり」、「地域で育てよう！武蔵野の子ども」、「災害時に試される地域力」などをテーマとしたタウンミーティングを計10回、地域別の2巡目のタウンミーティングを計11回、屋外での青空タウンミーティングを計5回開催いたしました。今回は、「学生と語る武蔵境のまちづくり」をテーマに、学生の皆さんとの意見交換を行いました。

今回は、シニアネットむさしのとの共催により、「第43回市民と市長のタウンミーティング」を開催しましたので、その結果を報告いたします。

今後も、市内の様々な場所で、タウンミーティングを開催していくことにより、さらに多くの意見交換を行ってまいります。

武蔵野市長 **邑上守正**

概 要

1. 日 時 平成24年5月10日(木)
午後7時～8時30分
2. 場 所 かたらいの道 市民スペース
3. 主 催 武蔵野市
シニアネットむさしの
4. 参加者数 27人
5. 主催側出席者 市 長 邑上 守正
シニアネットむさしの 運営委員長 千種 豊
企画政策室長 小森 岳史
市民協働推進課長 森安 東光
6. 司 会 シニアネットむさしの 運営委員 栗田 充治
井波 信一
企画政策室市民協働担当部長 大杉 由加利
7. テ ー マ 『期待される団塊・シニア世代の活躍
～地域の課題解決に向けて～』

目 次

1. 発言の要旨.....	1
(1) 開会のあいさつ	1
(2) 『期待される団塊・シニア世代の活躍～地域の課題解決に向けて～』 をテーマにした意見交換(要旨).....	2
○地域デビューするきっかけ	
○現在の活動状況	
○市に期待すること	
○その他	
(3) 閉会のあいさつ	16
2. 当日いただいたご意見と市の回答・対応方針.....	17
3. アンケートでいただいた感想等.....	23
(1) 参加してみたい地域活動.....	23
(2) 自由回答欄でいただいた感想.....	23
— 付属資料 —	
第43回「市民と市長のタウンミーティング」ちらし	

1. 発言の要旨

(1) 開会のあいさつ

【市 長】

皆様こんばんは。今日の天気は午後7時ぐらいには雷雨という予報でしたが、皆様方のお力添えにより、このように晴れてまいりました。本日は夜分にもかかわらず、お忙しいところ、タウンミーティングにご参加いただきまして、ありがとうございます。

タウンミーティングも今日で43回目になりますが、これまで、地域ごとにコミセンの皆様と共催で行うもの、テーマを決めて行うもの、それからテーマを定めない青空タウンミーティングを実施してまいりました。

これまでに3,500名以上の方にご参加いただき、そこで出された意見を必ず報告書にまとめています。また、まとめて終わりではなく、例えば同じ地域で開催する際に、前回いただいたご意見の進捗状況などを報告しています。これからも継続して皆様との意見交換を行い、様々な市政運営のもとにしていこうと考えています。

本日は、人生の先輩諸氏の皆様がいっぱいらっしゃいますので、大変びくびくしております。先ほど司会の栗田さんにお聞きしたところ、黙って聞いていればよいというお言葉をいただきましたので、皆様が活動されていることも含めて、自由に発言いただければと思っています。1時間半という短い時間でございますが、どうぞよろしくお願いいたします。



【シニアネットむさしの 千種 豊 運営委員長】

皆さん、こんばんは。シニアネットむさしので運営委員長をやっています千種と申します。

やはりシニア世代というのは、ある面では非常に大事な世代です。特に団塊世代につきましては、いろいろなところで話題になっています。

皆さんは、大変な時代を抜け切った人たちです。バブルもあれば、景気、不景気などいろいろなことがあった中で、企業や地域で働いて、いろいろな商売をやられた方もいらっしゃいます。

今日のタウンミーティングをシニアネットでお手伝いさせていただいていますが、決して市長に物申す場にはしたくないと思っています。何でも行政に頼むのではなく、我々はこのことができるよ、我々だったらこんなこともできるよといった建設的な話ができればと思っています。行政それから我々市民がやるべきことというのをきちんと踏まえ、本来あるべき行政との連携というものについて、いろんな話をしながら、意見交換できる場にしていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。



(2) 『期待される団塊・シニア世代の活躍～地域の課題解決に向けて～』 をテーマにした意見交換（要旨）

【司会】



皆さん、こんばんは。シニアネットむさしの事務局長の栗田です。我々の団体は、文字どおり団塊世代のトップランナーを自負しております。

今日のタウンミーティングは、人生の大先輩で、市長より10歳、20歳年上な人ばかりですので、我々の経験を市長にお示ししようということで、お話をいただければと思います。

従来の一問一答的な形式の要望ではなく、我々はこうやって生きている、こういう思いで活動しているという団塊・シニア世代の心意気を市長にお伝えし、今後の市政にぜひ反映させていただきたいと思っています。

皆さんは、今の社会について、もう少しましな社会にしたいと思って一生懸命働いてきたのにどうしてこうなったのだろう。まだ元気があるうちに次の若い世代に少しでもましな社会にして渡すために、自分のできるところを行おうという思いを持っていらっしゃると思います。そこで、これをやってほしいという話ではなく、我々がどういう思いで日ごろ活動しているか、その中でどういう課題にぶつかっているのか、そういうところを率直に話し、市長にはそこからいろいろなヒントを酌み取っていただきたいと思っています。

特に男性の方は定年後、地域に出たくてもなかなかできないところがありますが、我々が地域で活動するきっかけである、時間・空間・仲間という3つの「間」について、それをどうやって獲得したのかということも、今後シニア層に働きかけるひとつのヒントになるのではと思っています。

また、活動を続ける理由について、ご意見をお聞きしたい。自分のためか、人のためか、また別の分け方なのか。

そして、我々がいろいろ活動する中で、高齢化が進み、後継者がもっと欲しいという思いがありますが、活動を広げるために必要なことということで、今我々が何を感じているのか、何を考えているのか、市や我々への期待ということを語っていただきたい。

これらの柱も踏まえて、それぞれ皆さんの自己紹介を兼ねて、活動状況などをお話いただければと思います。

【ご意見】

私は現在、NPO法人むさしの歩こう会の世話人をやっていて、タウンミーティングに初めて参加した。

私の地域デビューについては、定年退職後、それまで1日60本ぐらい吸っていたたばこをやめたところ、ウエストが20センチ増えたことがウォーキングを始めるきっかけだった。それから武蔵野中央公園のスリーデーマーチにも参加したりした。

【ご意見】

私は、それまで市報むさしのを一回も見ることがなかったが、退職後、家内に勧められて市報を見たところ、「お父さんお帰りなさいパーティ」という言葉が出ていて、初めて参加してみた。それがきっかけで老人ホームのボランティアをやることになった。

ボランティアというのは初めてだったが、人のためと思っていたところ、元気をもらったり、事前に準備などで、非常に自分のためになっていることを痛切に感じている。

あと、男性がなかなか地域へ入って来られない中で、最近は男性も少しずつ地域に出てきている。そのひとつとして、私は吉祥寺村立雑学大学にも関わっているが、希望者が非常に多くなっている。それから「お父さんお帰りなさいパーティ」も、去年あたりから定年前後で参加する人が少し目立ってきているので、私たちも個人的に声をかけながら、進めていきたいと思っている。

【ご意見】

私のきっかけは、ジャンボリーから始まり、そこから青少協を経て、現在けやきコミセンで活動している。

【ご意見】

私は武蔵野に住んで15年になるが、それまでずっと駅ばかり使っていて、市のことはほとんど関係なく過ごしてきた。喜寿になって少し時間ができたので、いろんな形で参加してみようと思い、寄附講座に行ったり、今度コミュニティ協議会の運営委員に立候補したりしている。

市には、公園が非常にたくさんありますばらしいと思っているが、あまり人がいない、使われていないと思っている。寄附講座に行って、いろんな人と話をすると、みんな能力があって、何か役に立つことをしたいという気持ちを持っている方が非常に多い。



例えばの話だが、通常のビジネスにはならないけれども、いろんな人が参加してつくり上げてエネルギー問題を解決していく、そういうひとつのビジョンをみんなで達成するか、そういう形の産業、経済、後輩のためにいい世の中をつくるとか、そういったことにつなげるような形のをやれたらと思っている。そういうときに、どういう形で進めていったらいいのか、市で相談に乗ってもらいたい。

【司 会】

ありがとうございます。今、具体的な提案のお話がありましたが、今の意見を聞いて市長からのお答えはありますか。

【市長】

団塊世代は、昭和22～24年ぐらいの生まれの方ですが、シニアとなると、私も入るのかなのかなと思っています。私は現在54歳ですが、夫婦のどちらかが50歳以上だと安くなるものもありますので、そのときは堂々とシニアですと言っています。今日は、概ね定年退職をした方、あるいはその予備群を含めての世代ではないかと思っています。

武蔵野市の場合、65歳以上の高齢化率が20%を超えましたが、今後もさらに高齢者の人口は確実に増えていく状況です。一方、少子化についても課題なのですが、今のところ、子どもの数は一定程度で推移して、大きくは減っていません。

ところが心配なのは、成人の日の対象者人数が、10年前は1,700人だったのが、今年は1,200人でした。20歳代、30歳代の人口が減っていくということは、親になる人が減っていくということで、ますます少子化が進んでくるという課題があります。



これからますますシニア世代は増え、市民の主要な構成のメンバーとなりますので、かつてのように定年退職をして悠々自適に隠居するなんてことはなくなってくると思いますので、これからはどうやって地域を支えていただけるのかということが大切ではないかと思っています。

最近読んだ本『坂の上の坂』の中で、著者が大学を卒業して懸命に頑張ってきて30数年が経過し、定年が大体見えてきたころになったとき、これから残りの人生が同じぐらいあるじゃないかと気づいた。つまり坂道を一生懸命上ってきた自分が、定年後また同じような年数の人生があるぞということから、坂の上に雲ではなくまた坂があるので、この2番目の坂をもっと真剣に考えないといけないのではないかという内容でした。

1番目の坂は真剣になって考えてきました。大学まで一生懸命勉強して、何になりたいかを考え、そして一生懸命生きてきた。しかし、実はそれで終わりではなくて、団塊・シニアの世代は、その2番目の坂をどうやって上っていくのかということが大切なのではないかと思います。

市では、エネルギー問題に関して、直接的に検討するための市民組織は持ち得ていません。現在、環境市民会議という組織があり、公募委員も募っています。もちろん年齢制限はありませんので、ぜひ手を挙げていただいて参加いただきたいと思っています。環境市民会議では、昨年原発の問題もあり、これからエネルギーをどうしようかということ、広く議論を始めていただいているところがございますし、放射線対策ということも議論を始めていただいております。

また、タウンミーティングでも皆さんの意見を聞く中で、例えばそういう研究の市民組織をつくったらどうかという提案があれば、それもひとつの提案として受けとめてまいりますので、これからもぜひ提案いただければと思っています。

【司会】

シニアネットむさしのは個人の参加も可能な組織ですので、そこで仲間、賛同者、共鳴者を呼びかけるという意味ではひとつの舞台になるかと思います。

【ご意見】

本町に住んでいる。まちの活動にそれほどは参加していないが、市の行政には大変満足しており、おかげさまで安楽に楽しく過ごしている。子どものころは、西荻窪と吉祥寺の間には境があり、水道も西荻には来ているのに吉祥寺には来ていなかったりしたが、いつの間にか日本中の住みたいまちの1位になってのは、市の行政のおかげもあると思って感謝している。

今は老人会なんかも活発にやっていただいているが、それもほどほどにして、行政はその分をぜひ子どもたちに力を入れて、子どもの住める、子どもを育てる親たちと子どもが住みよいまちに、総力を挙げてつくっていただきたいと思っている。

【ご意見】

中町に住んでいる。シニアネットでは写真係をしている。今後も元気が続く限りがんばって行けたらと思っている。

【ご意見】

吉祥寺北町に住んでいる。コミセンで活動しているが、「活動を続けるわけ」として、自分のためか、人のためかと考えてみると、人が喜んでくれたことによって、自分はやってよかったなという、自分の喜びになっているというのがある。何か活動するということは、自分が元気に生きていくひとつの糧になると思っている。

私の母は80歳を過ぎており、現在杉並に住んでいるが、武蔵野市のコミセンのような、ぶらっと行けて、お茶が飲めたりお話ができるようなところがない。

実は2年ぐらい前に母の具合が悪くなり、元気がなくなってしまった。おかげさまで、今はデイケアに通わせて、元気を取り戻したが、武蔵野市だとそんなことをしなくても、自分たちが近所のどこかに行って参加できるような場所があるので、とてもうれしいことであり、こういう形のやり方はぜひ、今後も続けていただきたいと思っている。



あともうひとつ、武蔵野市は、高齢者や年の上の人たちにはいろいろなことを一生懸命やっているが、私の娘を見ていると、子どもを預けて働きに行きたくても、待機児童が多くてなかなか保育園に入れられない状態であり、子どもを何人も産めないという、悲痛な思いをいつも聞いている。

私たちが若いころは、年齢によって賃金が上がっていったし、そういう安心感があった

が、今は夫婦で働かないと、それこそ家賃とかを入れたら食べていけない。しかし、働きたくても働けないので、どうしたらいいんだろうという悩みをいつも聞いている。やはり若い人たちが武蔵野市でもっと住みやすい、安心して暮らせるようになると、人口も安定していくのではないかと考えているので、ぜひ期待したい。

【市長】

武蔵野市も、子育てについては極めて一生懸命やっているとと思っています。ただそれが追いつかないですね。これは他の自治体もそうなのですが、子どもの数はそんなに増えていないのですが、やはり女性の方の社会進出というのもこの間進んでおり、子どもを預けて様々な社会活動をしたいという方も多くいらっしゃるの、待機児という問題は武蔵野市に限らず、全国的な課題となっています。



3年前には定員100名規模の認可保育園を開設し、その後も認証保育所や乳児の子どもたち中心の施設をつくっています。そして、現在は、境幼稚園を廃園し、幼稚園と保育園を合わせた子ども園を開設し60名程度、北町保育園を移転・増築して30

名程度定員が増える予定です。確実に定員を増やしていますが、それ以上に求められる方と、それから周辺の自治体と比べて若干でも入りやすい自治体があれば、そこに移動される方も結構いらっしゃるの、なかなか解決していかないと思っています。

ただ、そうした要望にも大いに応えていこうと考えておりますので、それに向かっていろいろな施策を積み重ねていこうと思っています。

もうひとつは、お願いですが、先ほどから子どもたちのためにとおっしゃっていただいたので、ぜひお子さん、お孫さんのためにお力をいただけたらと思っています。私の両親も共働きで、保育園にお世話になったのですが、それ以上に両方の母親にすごくお世話になりましたので、そういう状況の方には、お孫さんにぜひお力をいただけたらと思っています。よろしくお願いします。

【司会】

ここで、司会が変わります。シニアネットむさしの井波です。よろしくお願いします。

【ご意見】

吉祥寺東町に住んでいる。現在実家の祖父の土地でコミュニティカフェをやっており、年齢や性別、価値観の差異に関係なく、人との交流を図りたいと思っている。普通のカフェだけではなくイベントもやっており、読書会や編み物教室、手品教室なども行っている。

私は今24歳だが、カフェの利用客も比較的若い人が多く、イベントも結構若い人が講師

となっており、唯一手品教室が60歳を過ぎた方が講師になっている。それで孫育てのように、もっと知識や経験のある年配の人に、イベントの企画や、講師となって勉強会なども行っていただきたいなと思い、そういったつながりをつくりたいと思っているので、もし持っているノウハウを発揮していただけるという方がいたら、ぜひお願いしたい。

【司 会】

ありがとうございました。今のお話のように、先ほどもいろいろなお話が出たかと思えます。やはり武蔵野市内にお住まいのシニアの方のアビリティーというのは非常に高いと思うのですが、なかなか活躍の場が見つからない。コミュニティセンターが16カ所あるが、いまひとつ活用されていないように感じています。なかなか個別では難しいかと思えますので、行政が直接はできないかもしれませんが、ぜひ何かそういうのでお力をいただいて、今のようなご要望に応えられるシステムがあれば、私もそういう意味で大いに賛成だと思っております。

【ご意見】

待機児童について、なかなか一挙に解決できていないが、何が問題なのか。土地、管理、費用などどれが障害になっているのか。

【市 長】

保育園について、認可保育園という、普通の庭があって、0歳児から6歳児まで入れる保育園をつくってほしいと言われるのですが、それには極めて経費がかかります。人件費、土地代、建物代はもちろん、人を雇うということは、将来的にその人たちのある程度の雇用を考える必要があります。人口予測をしますと、ここ数年は先ほど述べたとおり、ほぼ同じように子どもが産まれていくだろうということなのですが、その後、がくと減っていくという時期を予想しているため、それを踏まえて、今ある資源を有効活用したやり方ができないかと考えています。



そのひとつは、定員割れをしている幼稚園なんです。幼稚園は市内で定員が1,800名ぐらいありますが、100%埋まっていませんので、それらの資源を有効活用できないかということ、今投げかけています。

その成果のひとつとして、幼稚園でも最近預かり保育といって、大抵は2時ぐらいで終わるところを、夕方5時ぐらいまで見てくれるという幼稚園が増えてきました。その結果として、幼稚園は3歳以上なので、実は3歳以上の待機児童は減っています。実際に武蔵野市内の公立保育園でも5歳児は定員割れするなど、年齢的なアンバランスがあります。そして、今課題なのは、0、1、2歳児になります。

そこで、現在グループ保育という事業をスタートしています。保育ママというのを聞いて

たことがあると思いますが、保育ママ1人について2、3人まで、自宅を使って預かれる事業があるのですが、1人対3人というのは大変不安ですので、保育ママを2、3人集めて、それで9人、10人ぐらいをグループで保育しようという取り組みを昨年からはじめており、3カ所で行っています。そういう形でなるべく乳児の対応を手厚くしていくという取り組みをしております。

しかし、それでも応募が増えているので、なかなか解決できていません。

【ご意見】

昔から幼保一元とあって、どこかの市町村だったか3歳児までは全部保育園、3歳以上から全部幼稚園で預かるという、すみ分けみたいなことをやっている地域があると聞いたことがあるが、武蔵野市ではできるか。

例えば、幼稚園というと、確かに延長保育することによってお母さんたちが働く時間も少し長くなってきた。だから実際には5時まででなくても4時ぐらいまで預かってくれるようなシステムができてくると、3歳児から年長ぐらいの預かりができるようになって、逆に保育園は0、1、2歳児という形ですみ分けできれば、少しは待機児童の問題も解消できるのではないかな。

結構おじいちゃん、おばあちゃんが迎えに行ったりしているもので、逆に言うと、その人たちが役割を担うことで、お父さん、お母さんの働く時間、特にお母さんたちの働く時間が延長できるということは、すごくいいことだと思う。

それに対して、市で幼稚園に対して補助を出していくとかいうことはどうか。

【市長】

先ほどお話ししましたとおり、幼稚園の協力が得られてきているので、徐々に年長の待機児が減ってきています。いろいろな資源を活用していけば、例えばパートタイムなどで、4時、5時で仕事を終えて帰ってこられる方は、幼稚園の延長保育で対応するなど、多様なスタイル、多様な保育が必要であり、こども園の展開を今考えているところです。

もちろん、幼稚園に対しては、市からの補助を出してお願いしているところです。

【ご意見】

今年定年になる。この間自分の履歴書を久しぶりにつくってみて思ったが、これまでのいろいろなことをやってきたが、考えてみたら、全部同じ世代、自分の世代がやっていることを追っかけていたんだと思った。結局自分がどう生きていけばいいのかということ、ずっと研究対象として追っかけてきたんだという反省点が見えてきた。

というわけで、64歳を過ぎるところでまさにシニア世代というところをこれからやっていきたいと思っている。それで何をするかということで、とにかく集まる場所が何をすることにしても一番だと思っている。

そこで、コミュニティカフェのようなものが、今武蔵野市にどれぐらいあるかというのでも知りたいし、それからふらっと集まれる場所がどれぐらいあるのか。もちろんコミセン

もそうだが、それはどれぐらいあるのか知りたい。

それからもうひとつは、団塊の世代ないしはシニア世代がどんなものを欲しているか。団塊プロジェクトのときに、一番最初に調査したが、そのときはみんな職業志向みたいなのところがあり、いつまでも働くぞというのが結果として出ていたみたいだが、今度はどんなことをやりたいかとか、趣味に生きるだとか、地域の中で関わっていききたいとか、いろいろな好みがあると思うので、その辺について市で調査できないか。本当はこういうことをやりたいんだというのがわかったら、それに合わせていろいろなところにつくっていきたいと思っている。

【ご意見】

吉祥寺南町に住んでいて、自営業で定年のないクラシック音楽の声楽家をやっている。このまちに移ってきたのが14年前だが、ただ住んでいるだけでずっと過ごしてきた。実は30年近く野口雨情の研究をしており、この土地に雨情がかつて住んでいらしたということで、7年前に雨情会というのを立ち上げて、研究活動及びコンサートなどみんな歌う活動を始めた。しかし、だんだんボランティア活動を少なくしていくような方向で、減らしていかざるを得ないという状況にある。



野口雨情の書斎を移築した童心居

市教育委員会とのおつき合いをしているが、ちょっと制度が疲労的なのところがある。芸術文化協会について、20数年前にできた仕組みが逆に年をとってしまって、動きが悪くなっている。文化事業団は外タレを呼んだり、外から買って来たものを売っているが、一方において、おじいちゃん、おばあちゃんたちのおけいこごとの発表会は非常に守られている。

しかし、職業として専門家でやっている者には何ら特典はない。コミセンなんかでお金を取ることはできないので、そのはざまですっぱり外に出ていってしまう。それが現状なのだが、武蔵野市でもっとしっかりしがみついてやっていきたいと思っている。

【ご意見】

御殿山に住んでいる。貴重な話を聞いて、何でも市役所に頼み込むのではなく、自分たちでやれることを考えたらどうかということにはそうだなと思った。武蔵野市に何10年も住んでいるが、専門家というか、先生とか、いろいろな知識とか経験を持っている方がたくさん住んでいる。

先ほどもエネルギーや子育ての話などいろいろな話が出た。国や市でもいろいろなセッションで考えていると思うが、それとは別に、武蔵野市にそういうエキスパートはいっぱいいるので、それを生かしてボランティアで、市民のシンクタンクをつくったらどうかと思っている。

シンクタンクというのはご存じのとおり、問題を解決する方法を考えるところであり、武蔵野市が持っている特徴、人口の構成とかを生かしていくことになる。そういうシンク

タンクをボランティアで武蔵野市につくって、市へ提案したりするといいいのではないかな。

【市長】



武蔵野市は本当にありがたいことに、在住の専門家の方が大勢おられるので、委員会等を設置しても、市内の先生に全部お願いできてしまうところがあります。皆さん手弁当でやっていただいているのでありがたいのですが、そのような形とともに、広くいろいろな知恵を寄せ合って、様々な課題に対応いただく、そんな市民組織ができれば、すごくおもしろいと思いました。

ただでというわけにもいかないと思いますので、いい提案には何か出さないといけないかもしれませんが、そういうつながり、シニアネットでもおそらくいろいろなグループがあるかと思しますので、そういうところから知恵袋の皆さんが集まって、「市民シンクタンク武蔵野」という形ができればおもしろいですね。

【ご意見】

吉祥寺南町に住んでいる。3月の末に引っ越してきたばかりで、三鷹市と武蔵野市が違う市だということも、初めて知った。住みたいまちナンバーワンと言われている吉祥寺とはどんなまちなんだというのを、しっかり知らなきゃいけないということで、いろんなところをのぞいたりだとか、顔を出したりしている。

そこで、お酒を飲んだりするところで、若い人に話を聞くと、武蔵野市は大学が多くて若者のまちと言っているが、学校が終わった後、普段どういうところで遊んでいるとか、どこによく行っているのと聞くと、特にないか、別に遊ぶところはない、あまりおもしろいところはないだとかいう返事が返ってくる。また、就職も難しいから、一生懸命就職活動をしなきゃいけないだとかいう話を直接若い人たちから聞くと、何か吉祥寺というまちのわりには物足りないとか、寂しい感じがしている。

先ほど別の人も話していたように、ある程度お年を召した方が、経験を生かして活動していかなきゃいけないと私も思っている。若い人と話をしているのは、どうしていいか、この閉塞感を打開するために、具体的に何をしたいかわからないというところで苦しんでいるという感じを非常に受ける。

そこで、経験を持っている人たちがその経験を生かして、何か若い人たちにフィードバックしていくというのは、大切なことだと思う。コミュニティカフェで知識、経験を貸してくださいと言う意見があったが、そういう試みは非常に受けるのではないかと個人的に思うので、ぜひ自分としてもやっていただきたい。

【委員長】

シニアネットのみんなは社会経験豊富で、以前に企業でいろいろなことをやってきているので、学生にそういう話をする場を設けていこうという企画を今練っているところです。

今年あたり少しやりたいなと思っています。

今、会社に入って3年目でやめる人が非常に多いんです。なぜかという、ギャップなんです。仕事をするということはどういうことなのかという心構えができていないうちに会社に入って、いや、こんなはずじゃなかったと結構やめるんです。

我々の世代は、仕事を通して、仕事の仕方とか、勤め方、人間関係のつくり方などいろいろなことを学んできている。そういう話を通して、学生に気概を持っていただいて、勤めるときの心構えとか、社会とは何ぞやとか、我々はこんなに酒を飲んでいたとか、そういう楽しさを教えていく場を設けてもいいと思っています。

【ご意見】

八幡町に住んでいる。今日、ここに来たのは、市報で「期待される団塊・シニア世代」というテーマを見て、ぜひ来てみたいと思ったからである。私は、コミュニティセンターでの活動を10年近くやっているが、実は一緒にやっている男性が非常に少ない。それで団塊の世代のご意見を聞ければ思っていた。地域によっていろいろあると思うが、私のいる本町では、ほとんど男性がいなくて女性ばかりになっている。団塊の世代がもっと来てくれればいいなと、それからもっと若い人も来てくれればなおいいと思って、本日参加した。

【ご意見】

中町に住んでいる。初めてタウンミーティングに参加した。皆さんすごく建設的な意見が多くて、ここにいる場がないと感じている。私は長いことサラリーウーマンをしており、男性社会の中で必死になって生きてきて、やっと終わって武蔵野市に戻ってきたときに、何かないかなと思っていたあるとき、コミセンを訪ねたら「お父さんお帰りなさいパーティ（おとぼ）」というのがあり、女の人はいいいのかなと思ったが、参加した。

これから会社をやめた人というのは、確かに地元に戻って、いろいろとやることがあると思う。武蔵野市のおとパは全国で一番最初にできたそうだが、先日、八王子市のおとパに行ったところ、NPOばかりの集まりだった。すごくたくさんの方が来ているし、事業を始めようとしているみたいな部分もあった。

しかし、やっぱり武蔵野市の方が、確かにあまり人は集まらないが、やり方としてはこれでいいのではないかとつくづく感じたので、武蔵野市にいてよかったと思っている。

あと、趣味でスキーをしているが、ボラセンで紹介してもらい、障がいのある子どもたちと一緒にスキーを長くやっている。その子どもたちがたくましくなり、私がやっとなついていくような感じになっていたりするが、それは人のためではなくて、最終的には自分のためになっていると思っている。

最後に、やはりお年寄りではなく子どものために、一肌でも二肌でも脱いでほしい。



お父さんお帰りなさいパーティ

【ご意見】

中町に住んでいる。皆さんの話を聞いてとてもよい学びになっている。自分がどのように年老いていけばいいのか模索している最中で、雑学大学やおとぼサロンに参加している。

死ぬまでちょっとでも役立っていたいという気持ちがあるが、それは自分の生きがいというものを持っていないと、なかなか生きるモチベーションがない時代であり、自分なりに何かひとつでも役立っていたいという気持ちでおり、これからも皆さんをお手本にしていきたいと思っている。

武蔵野に暮らして17年になるが、ムーブスであれ、コミュニティセンターであれ、とても革新的な都市だと思う。頭のやわらかい人がたくさんいて、意見もたくさん出て、それを前向きにとらえて、建設的にやっという人が多いと思う。だから住みやすいまちではないかと思っている。欠点もあるが、それも善処しながらいきましょうという前向きな人が多いと思う。

この地域デビューというのは、結局どのように年をとっていけばいいのか、1年生なので勉強していきたいと思って、これからもいろいろなところに参加していきたい。

【ご意見】

吉祥寺北町に住んでいる。我々の世代の仲間内では最近、武蔵野市は吉祥寺が住みたいまちナンバーワンになっていることで、その評判が先にいってしまったが、大抵吉祥寺にいる人は、いやそうは思わないということを出す。そこからどこへ行くかということが結構話題になっており、武蔵野市は役所の人も努力した結果、健全な財政を保っているとは思いますが、やはり緊縮から投資にいかないとだめじゃないのという話が出てきて、何に投資するのかというところが一番の問題ということになってくる。

まちとしてというか、武蔵野市としてある程度生き残っていくのに、これから何に投資していくのかについて、人材というか、専門性の高い人に支出するような話が先ほどあったが、僕はボランティアをするときには、自分の仕事とは関係のない手伝いはするが、仕事の専門性に関してはボランティアはやらないことにしている。

震災の後に、土木とか建築とかの人たちを登録する制度が国交省で出来ている。それは自分の専門性に対してどういうものができるかということと、それに対してどれだけ要求するかということになる。やはり専門性の高いことをするためには、お金がなかったらモチベーションが上がらないので、アイデアも出ないと思う。

そういう意味で言うと、申しわけないが、大学の先生が安くやってしまうのはよくないと思っている。だから市民としてはあっても、人材登録はある程度した上で、市がこのお金でやってくださいと言い、やった上で、だめならだめでいいと思う。高い専門性に対しては、それに応える市民が武蔵野市にはいると思っているので、そういうところに投資していくことが、将来的にプラスに転じるような、武蔵野市としてもすごく高い計画や高い何かのプロジェクトができたりということにつながるのではないかと考えている。

さっきのスキーの話もそうで、子どもを育てる上でプロの人が、やはりちゃんとしたお金のもとにやってくれば、それは子どもたちを送り込む上で安全だし、オリンピック選

手を育ててくれるというなら、それはそういう投資が必要だと思う。私は団塊というくくりは非常に嫌いで、今は団塊よりも下だが、団塊と言った時点で我々は引いてしまう。団塊には入りたくない。団塊の人たちもおれたちは団塊じゃないと言っている。

だから、若い人と技術を競うような意味でも、何か人材に投資をしていくような仕組みが市の中にできると、若い人と、それからそれを引っ張っていくシルバーというか、お年寄りも頑張れるのかなという感じがしている。

【市長】

先ほど、手弁当でありありがとうございますと感謝をしたところでございますが、先生の皆さんには他分野で参加いただいているので、基本的には専門的な立場での参加ではないかかもしれませんね。確かにおっしゃるとおりで、私も元コンサルタントをやっていたので、専門的なことをボランティアで参加というのは、我々の世代は厳しいと思います。

しかしそれを超えて、地域でずっと暮らしていた皆さんが地域を愛して、地域のためにということであれば、それは大いに結構だと思っておりますので、その際には手弁当でよろしくお願ひしたいと思ひます。

それと、さっき男性が少ないという話がありましたが、今はやはり地域を支えていただいているのは、女性の皆さんです。ボランティアグループ、コミセン、地域福祉の会など実質的に様々なサービスの先端にいるのが女性の方たちですが、それはある面仕方ないと思っています。男性はやはり定年まで一生懸命仕事をし、仕事を終えてから地域に出ても、その間ずっと地道にPTAから地域に参加している女性には勝てるわけですね。

そういう理解のもと、何か役割分担があるのではないかと考えています。私は、会社の経営者だった方でも、地域でもいきなりリーダーにはなれないと考えていますので、その際には、女性の皆さんのもとでいろいろ教を乞いながら、徐々に地域での役割を学んでいくということが必要ではないかと考えています。

強いて言えば、若いころから何らかの形で地域との関わりを持っていれば、わりと定年になってからも、地域への参加がスムーズに行くのでは思っているのですが、皆さんに言うことではないですが、若い世代にも大いに地域参加をしていこうと呼びかけたいと思ひます。冒頭に申し上げました第2の坂に行くためにも、第1の坂の時点で第1の坂だけ見ているのではなくて、もう少し別の地域をきちっと見ていく必要もあるのではと思ひます。

【司会】

団塊世代を少し代弁しますと、私は個人的には団塊であるがゆえに、もまれてきたという経験がありますので、既存の例えば今のコミュニティセンターとかの中には、入りたくないです。自分がそこに入って何ができるかという裁量がある程度与えられなければ、ちょっと躊躇します。

ですから、既存のコミュニティセンターなども



改めていかないといけないと思っています。頭数ではなくそういう質的なものを求めるようなアイデアを出さないと、なかなか人は入ってこないのではと思います。

【ご意見】

西久保に住んでいる。私も団塊の世代で、ここで30年近く自営業をやっている。5年前から経営支援をするためにNPOを設立した。市が中心になっているのは、子育てとかシニアとか、どうしても人数が多いところに目が行きがちだが、これから武蔵野市にどんどん多くの企業が育ってほしいということで始めたのだが、なかなかうまくいっていない。

三鷹では身の丈起業塾という何かお金を出して起業するためのビジネスコンテストをやっているようだが、そこから先がなかなか育たないという状況のようである。

やはり武蔵野市の財政基盤を救うためにも、大きな企業だけではなく、小さな企業がいっぱい出来てそれを支え合うということも、経済的な部分で見たいと思っています。本来は市、行政でやってもらいたいインキュベーションオフィスを、自前でとにかくやろうということで、吉祥寺図書館のそばで、再来月ぐらいから始めることにした。

起業家、これから育つ人と、その中で地域の人たちが応援できるような、起業家が集まるカフェ、それからSOHO的に事務所を使ってやれるようなことを考えている。しかし、これは我々民間がやるよりも、むしろ行政側でやって、バックアップを我々がしたいと思っているので、ぜひそういった若い人を育てることを武蔵野市で考えていただきたい。

就職難でなかなか仕事につけない人もいるが、起業することにチャレンジしたり、新しいインキュベーションのもととなる拠点をイースト地域につくりたい。

今までの風俗地域から浄化し、それから第2、第3弾として、そういう施設をオープンする。今度市がつくって我々がサポートするという形になるとありがたい。

武蔵野市に62年半住んでいるが、いるとやはり何となく落ちつく。特に今吉祥寺に事務所を構えているので、公園があって買い物ができて、ちょっと飲食店もあるので、非常にこじんまりとした雑多煮のまちであると思う。しかし、それが活性化という意味で、お金を使うまではまだいいような、ただ人がにぎわっているだけと感じているので、活性化するということを考えていただきたい。

【ご意見】

武蔵野市の長期計画とかいろいろな委員をやってきたが、一応時間給的なものをもらっている。確かにノウハウに対して払うということはないが、やはりプロにはプロとしてのノウハウがあってもいいと思っている。しかし、逆に雑学大学の事務局の立場からすると、どんなに高額なギャラの人でも、全部無料をお願いしているので、相反する価値観を持っていて、それをどうバランスをとるのかというのは重要なことだと考えている。

また、我々は地域メディアをやっているが、地域メディアであるがゆえに、プロ的には

評価されていない。例えば同じような出版でも、下調べの段階での問い合わせはあるが、すぐ大手のところへ行ったりする。なので、地域のものについて、専門家として評価するようなシステムがあってもいいのではないか。

【司 会】

どうもありがとうございました。今日は具体的な提案といたしますか、我々シニアネットむさしのなり、NPOなり、それぞれの団体でやっているものとして、こういうことをやったらいいのではないかという、励ましにもなるご提案をいただいたと思いますので、ぜひこの後すぐお帰りにならないで、名刺交換なり今後のつながりをつけていただきたいと思います。ちょうど予定した時間になりましたので、今日いただいたお話をまたぜひシニアネットむさしののとしても、具体的に考えさせていただきたいと思います。

(3) 閉会のあいさつ

【委員長】

どうもありがとうございました。皆さんにいろんなご意見をいただいて、ぜひまたシニアネットにもしっかり反映していきたいと思います。シンクタンクのお話については、ぜひ考えてみたいと思いました。また大学生を含めて若い人の支援も考えてみたいとちょっと思っていますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思っています。今日はありがとうございました。

【市長】

ありがとうございました。本日は様々なご提案をいただきました。若干若い方もいらっしゃる中で、どちらかというベテランの皆さんのいろいろな話を聞きたいなという、そんな感じを私は受けました。私も雑学大学に 20 代のころに行って、それがすごく勉強になりました。それは講義の先生の話ではなく、その後のその人とのコミュニケーションというんですか、それがすごく自分にとっては地域活動デビューのきっかけになっています。

そこで、世代を超えたコミュニケーションが、もっともとなされるべきではないかと思います。実は団塊・シニア世代のネットワークというの、どちらかという横のつながりです。学校関係は縦のつながりなので、地域というのは斜め、いろいろな人が一緒になった世界で、コミュニケーションをとろうということなので、斜めの世界に皆さんぜひ挑戦していただきたいと思います。また、皆さんからコミュニティカフェなどにも出かけていただいて、ぜひ若い方に直接話しかけていただければ、よりいいのではないかと思います。

それからコミセンを変えるにはコミセンに行かないと変わらないと思いますし、やはり外で見る限り、それは全然変わらないので、そういう問題をお感じになった方は、ぜひコミセンに行ってください、そこにいる皆さんと一緒に頑張ってくださいと思っています。

冒頭申し上げませんでした、武蔵野市の課題のひとつにコミュニティをどうしていくかということがありますので、世代を超えていろいろな方が集えるような機会を、市としても工夫していきますけど、皆さんからもぜひいろいろな場に出て行って、いろいろな世代との交流の場をつくっていただきたいと思っています。本日は本当にありがとうございました。

2. 当日いただいたご意見と市の回答・対応方針

(※アンケートでいただいたご意見も含みます。また、同じ趣旨のご意見については、一部割愛しています。)

番号	分類	ご意見	市の回答・対応方針
1	市民主体と市民参加	<p>いろいろな人が参加してつくり上げてエネルギー問題を解決していく、そういうひとつのビジョンをみんなで達成するとか、そういう形の産業、経済、後輩のためにいい世の中をつくるとか、そういうことにつながるような形のものをやれたらと思っている。</p> <p>そういうときに、どういう形で進めていったらいいのか、市で相談に乗ってもらいたい。</p>	<p>地域の課題を解決していくために、問題意識を持った人と活動団体のコーディネーターや活動団体同士のネットワーキングは大変重要です。武蔵野市市民活動促進基本計画でも、市民活動のきっかけづくりや、情報提供、コーディネーター等を施策として取り上げております。</p> <p>具体的な事業としては、市民活動団体相互の交流を目的とした懇話会や、交流イベント等を実施しています。事前に市報や市ホームページでお知らせしていきます。</p> <p>シニア世代は、これからの地域活動の中心となる貴重な存在です。社会貢献などご自身にとってやりがいのある活動をしていただくのは、健康の観点からも大変望ましいことだと考えています。</p> <p>一方で、市民活動には次の4点への配慮をしなければ、活動の維持・継続が難しいと考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①参加しやすく、お互いを縛りすぎないネットワークとして多数かつ重層的に存在する ②中心となる人物に過度な負担がかかりすぎない緩やかなつながりであること ③支える・支えられるという役割が固定したものではなく、それぞれに出番があるような関係 ④自らの活動をマネジメントできる力を持つこと、です。 <p>まずは志を共有できる仲間を増やし、活動していく中で課題があれば、市民協働推進課や武蔵野プレイスへご相談ください。</p>
2	市民シンクタンク	<p>武蔵野市に何10年も住んでいるが、専門家というか、先生とか、いろいろな知識とか経験を持っている方がたくさん住んでいる。国や市でもいろいろなセクションで考えていると思うが、それとは別に、武蔵野市にそういうエキスパートはいっぱいいるので、それを生かしてボランティアで、市民のシンクタンクをつくらうかと思っている。</p> <p>シンクタンクというのはご存じのとおり、問題を解決する方法を考えるとあり、武蔵野市が持っている特徴、人口の構成とかを生かしていくことになる。そういうシンクタンクをボランティアで武蔵野市につくって、市へ提案したりするというのはいいのではないか。</p>	<p>ご意見のとおり、本市には知識や経験をお持ちの方が多くおられます。長期計画の策定委員会をはじめ、市ではこれまでできるだけ市民の方に委員をお願いし、多くの成果を上げてきました。</p> <p>また、市が設置する委員会等だけではなく、市内には市民まちづくり会議・むさしののようにまちづくりの提案活動を行っているNPO法人もございます。</p> <p>市が税金を使って団体を運営すると窮屈な面もありますので、市民の皆様がそれぞれの知識や経験を資源に集まって活動していただいて、その連携や協働について、市民協働推進課や武蔵野プレイスを通して支援していきたいと思っております。</p>

番号	分類	ご意見	市の回答・対応方針
3	活動場所	<p>とにかく集まる場所が何をやるにしても一番だと思っている。 そこで、コミュニティカフェのようなものが、今武蔵野市にどれくらいあるかというのを知りたいし、それからふらっと集まれる場所がどれくらいあるのか。もちろんコミセンもそうだが、それはどれくらいあるのか知りたい。</p>	<p>コミュニティセンターの数や場所については、市の発行物やホームページ、市民協働推進課等で確認できます。コミュニティセンターによってはコミュニティカフェを定期的実施しているところもあり、各コミュニティセンター発行の「コミセンだより」や各コミュニティセンターのホームページでご確認いただけます。</p> <p>市内では、多くの方が様々な分野や場所で活躍しています。居場所や集うことができる場所についても、その必要性を感じた市民自らが自宅を開放したり、喫茶店を運営するなかで集いイベントを企画したりと様々な形で思いを形にしているものもございます。</p> <p>これら市民の活動を行政がすべて把握し紹介することはできませんが、ひとつのきっかけとして、まずはコミセンで実施しているカフェに参加して、交流を深めていただければと思います。</p>
4	団塊世代の意識調査	<p>団塊の世代ないしはシニア世代がどんなものを欲しているか。団塊プロジェクトのときに、一番最初に調査したが、そのときはみんな職業志向みたいなどころがあり、いつまでも働くぞというのが結果として出ていた。</p> <p>今度はどんなことをやりたいとか、趣味に生きるだとか、地域の中で関わっていきたいとか、いろいろな好みがあると思うので、その辺について市で調査できないか。</p>	<p>平成23年3月に市民社協では地域福祉計画アンケートを実施し、地域活動への参加意向などをお聞きしています。</p> <p>今後も、様々な機会を通じて、市民の皆様のご意見をお伺いしていきます。</p>
5	団塊世代の活用	<p>ある程度お年を召した方が、経験を生かして活動していかなきゃいけないと私も思っている。若い人と話をしていて感じるのは、どうしていいか、この閉塞感を打開するために、具体的に何をしたいかわからないというところで苦しんでいるという感じを非常に受ける。</p> <p>そこで、経験を持っている人たちがその経験を生かして、何か若い人たちにフィードバックしていくというのは、大切なことだと思う。コミュニティカフェで知識、経験を貸してくださいと言う意見があったが、そういう試みは非常に受けるのではないかと個人的に思うので、ぜひ自分としてもやっていただきたい。</p>	<p>社会を牽引してきた世代の蓄積された技術や知識は、本市にとっても貴重な財産であり、その経験を活かせるような場所と、活動できる人たちが出会える場や機会が重要であると考えています。</p> <p>市民社協が行っているおとば等の事業や、こども広場、テンミリオンハウスなどでの世代間交流も、ひとつのきっかけになるのではと思っています。</p> <p>今後も、そのような財産をいかした地域社会での活動の推進について研究していきたいと考えています。</p>

番号	分類	ご意見	市の回答・対応方針
6	団塊世代への支援	<p>これから会社をやめた人というのは、確かに地元に戻って、地元の周囲を見回して、いろいろとやることがあると思う。武蔵野市のおとばは全国で一番最初にできたそうだが、この間、八王子市のおとパに行ったところ、そこはNPOばかりでその団体の集まりだった。</p> <p>確かにNPOの集まりなので、すごくたくさんの方が来ているし、事業を始めようとしていた部分もあった。</p> <p>しかし、やっぱり武蔵野市の方が、確かにあまり人は集まらないが、やり方としてはこれでいいのではないかとつくづく感じた。</p>	<p>今後、「地域」ということの重要性はますます大きくなっていくと考えています。</p> <p>今後も引き続き「誰もが地域でいきいきと輝けるステージづくり」となるよう活動支援を行い、地域における役割、出番を感じることでできるステージ作りを支援していきたいと考えています。</p> <p>武蔵野市民社会福祉協議会が実施しているお父さんお帰りなさいパーティ(おとば)は、定年等により地域で活動を始めたお父さん達が、その当事者としての経験やアイデアから企画・運営されているものです。今後も、より魅力的な事業を実施いただければと期待しております。</p> <p>他に、市の団塊世代に対するものとして、団塊世代地域発見推進事業を実施しています。団塊世代を始め、シニア世代の課題やニーズに応じた事業を行っています。</p>
7	市への協力に対する適正な報酬	<p>震災の後に、土木とか建築とかの人たちを登録する制度が国交省で出来ている。それは自分の専門性に対してどういうものができるかということ、それに対してどれだけ要求するかということになる。やはり専門性の高いことをするためには、お金がなかったらモチベーションが上がらないので、アイデアも出ないと思う。</p> <p>大学の先生が安くやってしまうのはよくないと思っている。市民としてはあっても、人材登録はある程度した上で、市がこのお金でやってくださいと言い、やった上で、だめならだめでいいと思う。高い専門性に対しては、それに応える市民が武蔵野市はいると思っているので、そういうところに投資していくことが、将来的にプラスに転じるような、武蔵野市としてもすごく高い計画や高い何かのプロジェクトができたりということにつながるのではないかと考えている。</p> <p>若い人と技術を競うような意味でも、何か人材に投資をしていくような仕組みが市の中にできると、若い人と、それからそれを引っ張っていくシルバーというか、お年寄りも頑張れるのかなという感じがしている。</p>	<p>市民自治を推進していくためには、市民の皆さんの力は不可欠です。</p> <p>これまでも計画策定などの際には、市民のみなさんの知識や経験を公募委員やパブリックコメントなどを通して市の施策検討に活用し、委員等になられた方には一定の謝礼をお支払してきました。</p> <p>これは安価に済ませたいという趣旨ではなく、市民の方にご意見をいただくことで市民自治を推進するためです。また専門的な調査やコンサルティングは、専門の業者に委託契約をして適正な金額を支出してきました。</p> <p>高い専門性を持つ市民の方に市政参画いただくことは大切なことだと考えていますので、人材登録制度も含め、今後研究していきたいと思っております。</p>
8	コミセンへの参加	<p>コミュニティセンターでの活動を10年近くやっているが、実は一緒にやっている男性が非常に少ない。地域によっていろいろあると思うが、団塊の世代がもっと来てくれればいいなと、思っている。</p>	<p>コミュニティセンターやコミュニティ協議会については、今後もコミュニティ協議会と協力して、様々な機会を通じて積極的にPRを行い、利用や参加を呼びかけていきたいと思っております。</p>

番号	分類	ご意見	市の回答・対応方針
9	芸術文化活動	<p>市教育委員会とおつき合いをしているが、ちょっと制度が疲労的などところがある。芸術文化協会について、20数年前にできた仕組みが逆に年をとってしまって、動きが悪くなっている。文化事業団は外タレを呼んだり、外から買って来たものを売っているが、一方において、おじいちゃん、おばあちゃんたちのおけいごごとの発表会は非常に守られている。しかし職業として専門家でやっている者には何ら特典はない。コミセンなんかでお金を取ることはできないので、そのはざまをやっぱり外に出ていってしまう。</p>	<p>武蔵野市民芸術文化協会は、春に自主イベントなどを行うほか、市の委託事業として市民文化祭の開催や、松露庵を会場とした芸文講座を開催し、市民の皆様が様々な芸術文化に触れる機会を創出しています。武蔵野市民芸術文化協会は創立から20年以上経ち、自立的な事業実施を進めていますが、市としても状況に応じた適正な支援をすすめてまいります。</p> <p>市内の文化施設では、様々なジャンルの公演を開催し、市民の皆様へ優れた芸術文化を提供しています。また、市内の芸術文化団体等の支援を通じて、市民の芸術文化の振興を図っています。今後も、魅力的なまちでありつづけるよう、芸術文化の振興を図り市民文化の醸成に努めてまいります。</p> <p>コミセンは、コミュニティづくりの拠点として設置しています。コミセンを使用した活動を通じて人と人のつながりが生まれ、地域のつながりが醸成されることを期待しています。</p>
10	起業支援	<p>大きな企業だけではなく、小さな企業がいっぱい出来てそれを支え合うということも、経済的な部分で見たいと思っています。本来は市、行政でやってもらいたいインキュベーションオフィスを、吉祥寺図書館のそばで、再来月ぐらいから始めることにした。</p> <p>起業家、これから育つ人と、その中で地域の人たちが応援できるような起業家が集まるカフェ、それからSOHO的に事務所を使ってやれるようなことを考えている。しかし、これは民間がやるよりも、むしろ行政側でやって、バックアップを我々がしたいと思っているので、ぜひそういった若い人を育てることを市で考えていただきたい。</p> <p>就職難でなかなか仕事につけない人もいますが、起業することにチャレンジしたり、新しいインキュベーションのもととなる拠点をイースト地域につくりたい。今までの風俗地域から浄化し、それから第2、第3弾として、そういう施設をオープンする。今度市がつくって我々がサポートするという形になるとありがたい。</p> <p>武蔵野市に62年半住んでいるが、いるとやはり何となく落ちつく。常にこじんまりとした雑多煮のまちであると思う。しかし、それが活性化という意味で、お金を使うまではまだいっていないような、ただ人がにぎわっているだけと感じているので、活性化すること考えていただきたい。</p>	<p>市としても、広く産業の振興について推進してまいりたいと考えています。第五期長期計画にも、「都市型産業の育成」についての記載があり、今後、武蔵野市にの地域特性を生かした産業分野の振興について研究し、支援策等を検討していきます。</p> <p>具体的には平成25年度に産業振興計画(仮称)の策定を検討しており、商工業のみならず、農業、都市観光を含めた産業振興全般に関する方針を策定する予定です。その中で、起業支援やインキュベーションについても検討を行う予定です。</p> <p>吉祥寺地区については、吉祥寺グランドデザインにおけるイースト吉祥寺エリアのまちづくりの考え方である、「新たな文化・居住スタイルを発信するゾーンの形成」を踏まえ、地元関係者の方とともに継続的・発展的に環境浄化の取り組みを進めるとともに、適正なマンション誘導による複合機能市街地の環境形成に取り組んでいます。</p> <p>また、地区内の土地・建物所有者や居住者等が中心となって、地区の魅力向上と活性化に向けたまちづくりについての検討も行われています。今後とも多様な関係主体とともにまちづくりを進めていきます。</p>

番号	分類	ご意見	市の回答・対応方針
11	待機児童対策	待機児童について、なかなか一挙に解決できていないが、何が問題なのか。土地、管理、費用などどれが障害になっているのか。	<p>平成24年4月の待機児童は120名であり、年々上昇傾向にあります。待機児童対策として、平成23年5月にUR賃貸物件を活用し、緑町、桜堤に定員各10名のグループ保育室を開設、24年4月にも桜堤に1施設のグループ保育室を開設しました。</p> <p>今後は、平成25年度には境こども園を開設(定員107名のうち長時間保育61名)、北町保育園の移転改築により定員増(定員96名から128名へ)となり、また、JR高架下を利用した保育施設の検討も行ってまいります。</p>
12	待機児童対策	<p>3歳児までは全部保育園、3歳以上から全部幼稚園で預かるという、すみ分けみたいなことをやっている地域があると聞いたことがあるが、武蔵野市ではできるか。幼稚園というと、確かに延長保育することによってお母さんたちが働く時間も少し長くなってきた。だから実際には5時まででなくても4時ぐらいまで預かってくれるようなシステムができてくると、3歳児から年長ぐらいの預かりができるようになって、逆に保育園は0、1、2歳児という形ですみ分けできれば、少しは待機児童の問題も解消できるのではないかと。それに対して、市で幼稚園に対して補助を出していくとかいうことはどうか。</p>	<p>保育園と幼稚園では役割・機能が異なり、それぞれのニーズに合った施設を保護者自身が選択するため、年齢によるすみわけは困難な状況です。</p> <p>市内認可保育園において、乳児(0～2歳児)を預かる施設(精華保育園、ありんこ保育園)があります。</p> <p>預かり保育については、市内私立幼稚園全12園において実施しており、終了時刻も午後5時以降の園が大半を占めていますが、長期休業中は預かり保育もお休みとなる園も多くあり、市では、預かり保育を推進するため、平成19年度より補助金を交付しています。</p>
13	子育て施策の充実	<p>私の娘を見ていると、子どもを預けて働きに行きたくても、待機児童が多くて保育園になかなか入れない状態であり、子どもを何人も産めないという、悲痛な思いをいつも聞いている。</p> <p>私たちが若いころは、年齢によって賃金が上がっていったし、そういう安心感があったが、今は夫婦で働かないと、それこそ家賃とかを入れたら食べていけない。しかし、働きたくても働けないので、どうしたらいいんだろうという悩みをいつも聞いている。やはり若い人たちが武蔵野市でもっと住みやすい、安心して暮らせるようになると、人口も安定していくのではないかと考えているので、ぜひ期待したい。</p>	<p>乳幼児親子が気軽に立ち寄れる「0123施設」や「おもちゃのぐるりん」などのひろば事業のほか、身近にあるコミュニティセンターや公園、保育園や幼稚園でも子育て家庭が集うひろばや講座などを実施しています。また、市内の様々な子ども・子育てに関する情報をまとめて掲載した情報誌「すくすく」を毎年度作成し、子育て家庭に配布しています。</p> <p>経済的な支援としては、中学校修了前の児童を対象とした児童手当(国制度)や医療費助成(都制度+市独自に所得制限を撤廃、保険診療自己負担額無料)、幼稚園・幼稚園類似施設・無認可幼児施設・幼児教育施設に保育診療等を納入した満3～5歳児の保護者に対し、所得に応じた補助金を交付しています。</p> <p>また、待機児童対策として、境こども園の建設、北町保育園の移転改築などの保育施設整備やUR賃貸物件を活用したグループ保育室の開設などにより、緊急待機児解消事業を実施しております。</p> <p>今後も、第五期長期計画に基づき、子ども自身の育ちと子育て家庭への総合的支援を推進し、身近な子ども関係施設で子育て家庭を継続的にサポートする仕組みや、地域の企業、商業者など地域全体で子育て家庭を支えていく仕組みについて検討を進めていきます。</p>

番号	分類	ご意見	市の回答・対応方針
14	歩行者マナー	歩行者のマナーの悪さが目立っており、自転車以上に重大な事故に繋がらないかと日々恐れています。例えば歩行者の左側通行の多さ(10人歩いていれば9人は左側通行)	<p>歩行者のマナーについては、毎月10日の交通安全の日や春・秋の交通安全運動等において、警察署と連携して広報・啓発活動を行っているところです。</p> <p>歩道・路側帯内では歩行者の左側通行も認められています。しかしながら、携帯電話を使用しながらの通行など、危険なものも見受けられますので、今後も警察署と連携して継続的に広報・啓発活動を行っていきます。</p>
15	旧中央図書館	北町の旧中央図書館の跡地利用はどうなっているのか。	<p>現在、旧中央図書館跡地に何かを建てるということは決まっていません。しかし、平成24年度から始まっている武蔵野市第五期長期計画において「市民施設ネットワークの再構築」を課題として掲げており、その中で、施設の総量(総床面積)を抑制するとともに、老朽化による公共施設(公共性の高い民間の福祉施設等も含む)の建替えは未利用地を順次活用して行い、効率的・効果的に公共施設の更新と用地の有効活用を図る、と記載しています。</p> <p>相当の規模の広さがあり、市のほぼ中心にあることから、しばらくの間は、これらの建替えのための代替地として活用していくこととなります。</p>
16	歴史資料館	歴史資料館は西部図書館に決定したのか	<p>今年度から始まっている第五期長期計画で「旧西部図書館は、市民が利用可能なスペースを備えた歴史資料館として再整備することとし、その活用方法については今後、検討を進める」としています。</p> <p>現在、市民の皆様のご意見を伺うとともに、庁内検討委員会を設置して整備計画の検討を進めており、旧西部図書館を歴史資料館として整備していきます。</p>

3. アンケートでいただいた感想等

※アンケートでご記入いただいたもののうち、主なものを掲載しています

(1) 参加してみたい地域活動

子供の為の何か
若者支援
子育てコンサート、文芸的なサークル
環境
年齢の区別なく交流できる場
住民の安心、安全に留意する課題
高齢者への支援
プロジェクト
コミュニティカフェ
専門的分野

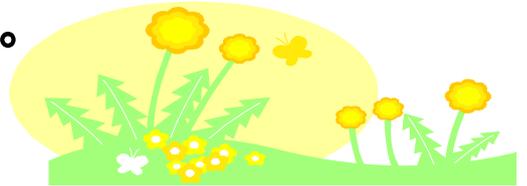
(2) 自由回答欄でいただいた感想

1	話しやすい雰囲気でした
2	とても雰囲気が良かった。あとは、若い人の意見をもっと聞きたいので、人を集めてほしい
3	意見が聞けてすごく実状がわかってよかった。

第43回 市民と市長の

タウンミーティング

市民と市長が意見交換を行います。
あなたの声をお聞かせください。



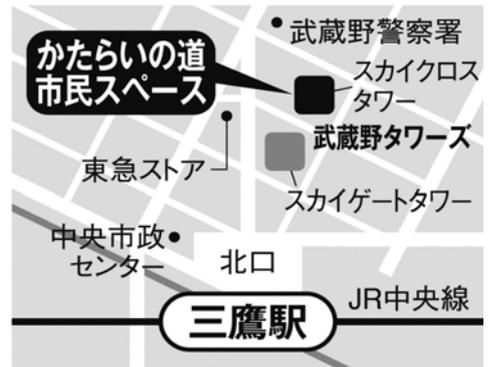
開催日時

5月10日(木) 19:00~20:30

会場

かたらいの道 市民スペース

住所：武蔵野市中町1-11-16



テーマ

「期待される団塊・シニア世代の活躍
～地域の課題解決に向けて～」

申込不要です。当日、直接会場へお越しください。
お車でのご来場は、ご遠慮ください。



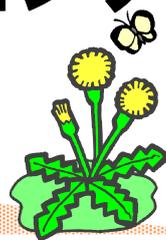
主催 シニアネットむさしの 武蔵野市

お問合せ 武蔵野市役所 市民協働推進課 (西棟7階)

TEL 0422-60-1829 FAX 0422-51-2000

第43回 市民と市長のタウンミーティング

「期待される団塊・シニア世代の活躍」



- 地域デビューのきっかけ
～時間・空間・仲間～
- 活動を続けるわけ
自分のため？ 人のため？
- 活動を広げるために必要なこと
団塊・シニア世代への期待、市への期待



当日参加できない方で、上記のことについて、市長にご意見・ご要望のある方は、下記枠内にお書きになり、市役所（7階）市民協働推進課、または各市政センターにお届けいただくか、FAXで市民協働推進課（0422-51-2000）にお送りください。

第43回

テーマ別
市民と市長のタウンミーティング

報告書

発行 平成24年9月

武蔵野市 企画政策室 市民協働推進課

武蔵野市緑町2丁目2番28号

電話(0422)60-1829 (直通)